

第26回運営評議会議事概要

1. 日時 平成28年3月25日（金）12：53～14：52
2. 場所 東京グランドホテル 4階 芙蓉の間
3. 出席者
委員 町田委員（会長）、近藤委員、大槻委員、清水委員、加藤委員、梅田委員、
白水委員、野口委員、石山委員、大西委員、岡山委員、十菱委員、柚木委員、
吉田委員
主務省 小島経営政策課長、菅原数理官
事務局 中園理事長、須藤理事、中里理事、山口監事、小林監事、下條企画調整室長、
廣田総務部長、山田業務部長、小林資金部長、水上数理・情報技術役
4. 議題
 - 1 農業者年金事業の実施状況について
 - 2 加入推進の取組状況と今後の進め方について
 - 3 最近の金融情勢と農業者年金の資産運用について
 - 4 平成28年度計画について
 - 5 その他
5. 議事概要
 - 資料1から資料4について、（独）農業者年金基金から説明を行った。
 - その後、意見交換が行われ、加入推進の取り組み等について各委員から発言があった。

<主な意見等>

[加入推進関係]

- ・加入推進について、全国的に見ると農協と農業委員会とが共同して加入推進が進められているように見受けられるが、ある地域では農業者年金に対する取組みが全く見えてこない感じを受けた。本日も出席の農協関係者の皆様へお願いですが、農協における農業者年金に対する存在感をより一層発揮していただけるような政策を採っていただけるようお願いしたい。
- ・政策支援について、父親が経営主である限り後継者の妻は残念ながら政策支援を受けることができない。是非後継者の妻も政策支援を受けることができるようにしていただいて、その上で通常加入するか政策支援を受けるか選択できるようにしていただきたい。今回の資料の中でも女性の寿命の方が長いとなっているので、自分の老後について十分考えることができるような手厚い農業者年金であって欲しいと思う。
- ・昨年近畿地方で農業者年金のラジオコマーシャルが放送され、結構効果があったと聞いている。テレビでは費用がかかりすぎると思うが、ラジオなら流れるフレーズは耳に残りやすいと思うし、今後も費用対効果を考えながらこういうメディアを利用して一般向けに広報宣伝

していくということは方法の一つだと思う。

- ・加入推進について、小さな町でも旧制度の加入者であった親が破綻を機会に新制度に加入しなかった方々があり、そのお子さんの新制度への加入についてなかなか理解が進まないのが現実であるが、新制度について理解していただけるよう話をしていきたいと思う。
- ・加入推進についての北海道のある町の実例で言えば、確かに旧制度への不信感があったが、新制度のメリットとして研修会でよく言われているように、自分の老後を考えて必要なお金がいくらかを考えさせる問いかけを行っている。その上で、自分の老後は自分が少し考えなければならぬだろうという話をし、年金は老後の備えのためで、体が不自由になったときは子どもたちへの負担が最低限で済むような形にすべきではないかという考え方を話すと、皆さん農業者年金は必要だよねという話になる。加えて、税制対策という部分でも優遇されていると付け加えている。
- ・認定農業者の認定や見直しが行われる際、行政等で、農業者年金のメリットについてのアピール、個人個人に対してもっと説明していただけると良いと思う。

[資金運用関係]

- ・資金運用に関し、運用益から危険準備金を積み立てる制度となっているが、マイナス金利下では十分な積立てができないのではないかとこの質問があった。これに対し基金から、運用を工夫しなければならない情勢にあるが、①これまでの準備金の積立てがあること、②マイナス金利がある程度継続しても、それ以上の期間の長期運用を視野にした運用を行っていること等から必要な水準は確保できると考えており、同時に、安心、安定的な運用先の模索をしているとの説明があった。

[その他]

- ・地域により農業収入の時期が11月末であったり3月であったりする。現在の農業者年金の保険料の変更方法では、収入をうまく保険料に反映できないことがある。希望する保険料を小回りの利くように運用できるよう検討していただきたい。

以上